



アフリカ・アジアに生きる大型類人猿を支援する集い

SAGA18 in 京都

会場：京都市動物園

2015年11月14日（土）

10:30～ 【希少種の導入と飼育管理・シンポジウム1】

15:00～ 【希少種の導入と飼育管理・シンポジウム2】

2015年11月15日（日）

10:00～ 【ご当地講演・シンポジウム3】



・・・目次・・・

スケジュール・プログラム

会場地図

開催案内

シンポジウム 1 講演要旨

シンポジウム 2 講演要旨

シンポジウム 3 講演要旨

ポスター発表要旨集

お知らせ

11月14日(土)

- ・ シンポジウム 京都市動物園 正面エントランス1F レクチャールーム
- ・ ポスター発表
- ・ ブース展示
- ・ 交流会 京都市動物園 正面エントランス 2F 旬菜食健「ひな野」
- ・ 世話人会昼食会 京都市動物園 正面エントランス1F レクチャールーム

15日(日)

- ・ シンポジウム 京都市動物園 正面エントランス1F レクチャールーム

(エクスカージョン)

- ・ 動物園 園内ガイドツアー(プログラム2日目参照)
- ・ 植物園 当日無料券配布・長澤園長のガイドツアー(14:00～)
- ・ 水族館 下村館長のバックヤードツアー,ガイドツアー(17:00～)
- ・ 科学センター 当日無料券配布

*** 園内は、昼食をとる場所が限られています。近くのコンビニエンスストア等で、ご用意頂いての来園をお勧めします。**

プログラム

【1日目】 11月14日(土)

- 10:00 受付
- 10:30 開会挨拶 門川大作(京都市長)
- 10:40 SAGA 趣旨説明 伊谷原一(京都大学野生動物研究センター・
日本モンキーセンター)
- 10:50 国境を超える絶滅危惧種:ボノボの事例から
古市剛史(京都大学霊長類研究所)
- 11:15 熊本サンクチュアリーにおけるボノボの導入
平田聡(京都大学野生動物研究センター)
- 11:40 ラオスから子ゾウたちがやってきた ~京都市動物園へのアジア
ゾウ導入について 田中正之(京都市動物園)
- 12:05 休憩
- 13:00 ポスターセッション
- 15:00 アフリカゾウの繁殖 椎名修(愛媛県立とべ動物園)
- 15:30 公益社団法人日本動物園水族館協会(JAZA)における
飼育下個体群管理 高見一利(大阪市天王寺動物公園)
- 16:00 シカゴへのニホンザル移出
松沢哲郎(京都大学霊長類研究所・日本モンキーセンター)
- 16:10 チンパンジーSSP(Species Survival Plan):アメリカ加盟国
におけるチンパンジーの暮らしを向上するための共同的運営計画
アメリカの個体群管理
スティーブ・ロス(シカゴ・リンカーンパーク動物園)
- 16:50 総合討論
- 18:00 交流会 旬菜食健「ひな野」京都市動物園店

[2日目] 11月15日(日)

9:30 三園館連携の趣旨説明 雨宮章(京都府文化スポーツ部理事)

9:40 ゴリラの魅力とは何か?

山極寿一(京都大学総長・三園館連携協定相談役)

10:10 三園館包括連携協定活動紹介

「ゾウとオットセイの糞でバナナを育てる ～動物園・植物園・水族館・科学センターが連携してできること」

京都市動物園 田中正之

「植物園の絶滅危惧種保全の取り組み」

京都府立植物園 長澤淳一

「おこしやす、京都水族館」

京都水族館 下村実

「施設の紹介とセンター学習で扱ったいきものたち」

京都市青少年科学センター 矢延直樹

11:30 総合討論

13:30～ エクスカーション

(動物園)

京都市動物園内は自由に見学をすることができます。

園内ツアーガイド(11月14日シンポジウム受付時,事前申込者のみ)

・13:30～ ① ゴリラ舎

② チンパンジー舎

各20名,合計40名

③ ゾウの森ガイドツアー(自由参加)

・14:30～ ① ゴリラ舎

② チンパンジー舎

③ アジアゾウ舎

各20名,合計60名

・13:30～14:30

おかえりなさい ヤリタナゴ(自由参加)

(植物園) 午前参加された方に当日限り有効の無料入園券配布 (先着50名)

当日午後2時からの「副園長ガイド(約45分)」参加券付

(水族館) 下村館長のガイドツアー (整理券配布)

17:00～(40分程度)

京都水族館内(バックヤード含む)

集合場所: 京都水族館「京の川ゾーン」

参加人数: 先着 15 名様

対象: 小学生以上の方

※お子様を抱えての参加は安全上ご遠慮いただいております。

料金: 無料

※別途京都水族館への入館料が必要です。

内容: 京都水族館の館長、下村館長と一緒に館内をまわります。

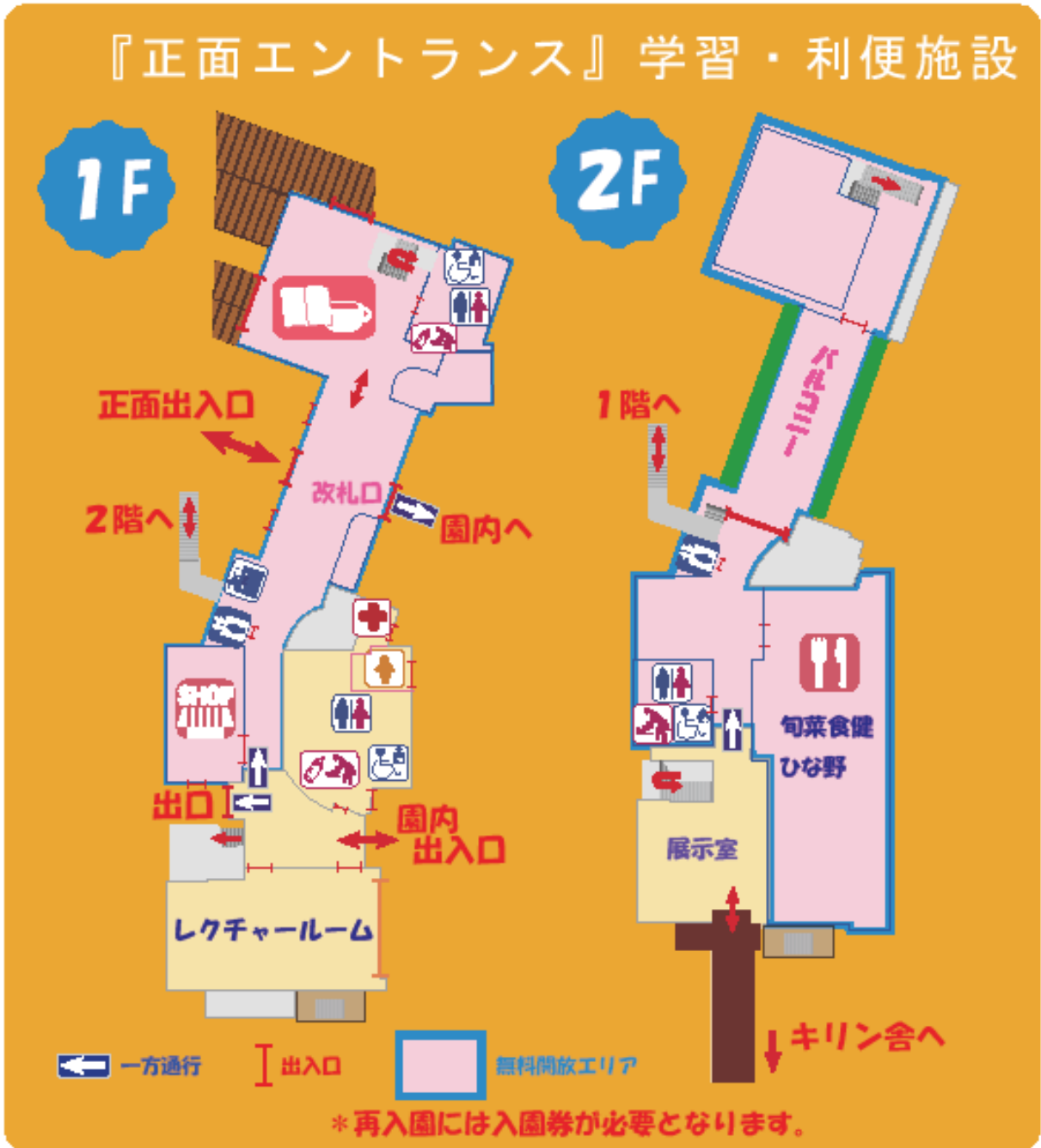
普段は入ることの出来ないバックヤードも見ることができます。

(フロント: 京の川ゾーン・かいじゅうゾーン・大水槽

バック: 調餌室・大水槽上)

**(科学センター) 午前参加された方に当日限り有効の無料入園券配布
(先着50名)**

シンポジウム・交流会会場 (レクチャールーム・旬菜食健ひな野)



ポスター会場

(類人猿舎屋内観覧エリア及びイーストギャラリー)



ブース出展 11月14日(土), 15日(日) 9:30~15:30
 会場: 正面エントランス前芝生広場

ようこそ京都へ

SAGA18に御参加の皆様、ようこそ京都へお越しくございました。平成16年以来となるSAGAシンポジウムの京都開催を、心から嬉しく思います。

先週の11月8日に、京都市動物園は平成21年から続けてきた全面リニューアルを終えて、グランドオープンをしたばかりです。リニューアルに当たっては、様々な方面の方をお招きして「動物園大好き市民会議」を組織し、新しい動物園の姿を検討していただきました。SAGAの世話人代表である伊谷原一先生には議長として、山極寿一京大総長（当時は理学研究科教授）に専門委員として御参画をいただきました。多くの市民の皆様にも集まっていただき、何度も議論を重ねながら、各ゾーンの再整備に取り組みました。「野生への窓」として、環境教育の拠点となることを目指して、新しく生まれ変わった動物園が個の度のSAGAの会場となったことは大変光栄です。

大型類人猿をはじめとする生き物たちの暮らしや種が末永く未来へと続いていくよう、日々熱心な御活動が続けておられる関係者の皆様、そしてそのお志と行動に共感され本日会場にお越しの皆様に、深く敬意を表します。

今回のSAGAを通じて、御参加の皆様が数多くの素晴らしい成果を共有されますことを念じています。

本市も、動物園リニューアルのほか、昨年11月にラオスから寄贈をいただいた子ゾウ4頭による「ゾウの繁殖プロジェクト」や、シンポジウム2日目に発表がなされる動物園、府立植物園、京都水族館、青少年科学センターの連携活動など様々な取組を進めています。これからも、動物を愛する多くの皆様と共に全力で取り組んでまいりますので、どうぞ御支援助と御協力をお願い申し上げます。

結びに、あらゆる人々に開かれた集いであるSAGAが今後ますます大きく発展を遂げられますこと、並びに御参加の皆様の御健勝と御多幸を心から祈念いたします。

京都市長 門川大作



SAGA18 の開催にあたって

SAGA18 の開催にあたり、世話人を代表してご挨拶申し上げます。

今年の SAGA は京都市動物園での開催となりました。京都市動物園では、2004 年の SAGA7 に続いて 2 度目の開催になります。京都市動物園は、平成 21 年 11 月に策定された「共汗でつくる新京都市動物園構想」に基づき、この 7 年間改修整備を進めてきました。この度その整備が完了し、SAGA 開催に先立つ 11 月 8 日にグランドオープンされました。エントランスはもちろん、ゴリラ舎や猛獣舎など 7 施設がリニューアルされ、新たにラオスから 4 頭のアジアゾウも導入されました。2 日目の午後には園内ツアーガイドが用意されていますので、この機会に新しくなった京都市動物園を是非お楽しみください。

さて、今回の SAGA は「残るのか？消えるのか？」というテーマで行われます。近年、動物園での動物の維持、繁殖、導入が困難になりつつあります。この状態が続けば、近い将来、動物園から動物が消えてしまう日が訪れるかもしれません。その背景には、多くの野生動物が絶滅の危機に瀕していることがあります。そこで今回は、海外で絶滅危惧種が直面している問題、国内における動物の導入、搬出、繁殖の事例、そして個体群の管理について、多彩なメンバーから話題提供していただきます。また、アメリカ・シカゴのリンカーンパーク動物園からスティーブ・ロス氏をお招きして、アメリカの個体群管理についてもお話しいたできます。同氏はアメリカ動物園水族館の協会・チンパンジー種保存委員会の委員長を務めておられますので、実践的かつ興味深いお話しが聞けることでしょう。2 日目は少し趣向を変えて、現在京都府が進めている三園館包括連携（京都市動物園、京都府立植物園、京都水族館）についてご紹介いただくとともに、京都大学の山極壽一総長にご登壇いただいて、「ゴリラの魅力とは何か？」というタイトルでご講演いただきます。

SAGA18 の開催にあたり、ご尽力いただいた門川大作京都市長、高山光史京都市動物園長をはじめとする動物園スタッフの方々に厚く御礼を申し上げます。また、SAGA 世話人会及びワーキング・グループの方々、ご後援いただいた（公社）日本動物園水族館協会、京都市教育委員会、京都府教育委員会に対し心より感謝の意を表します。

SAGA を通じて有意義な情報交換や人材交流が進展することを願っています。

SAGA 世話人代表

伊谷 原一

京都大学野生動物研究センター教授

（公財）日本モンキーセンター園長

京都市「動物園大好き市民会議」専門委員会座長



SAGA 18 へようこそ

SAGA の京都での開催は2度目です。先回は2004年のSAGA7で、京都大学と京都市動物園を会場にして開催しました。環境教育と動物園教育がメインテーマでした。今回のテーマは、「残るのか？ 消えるのか？」という、いささか物騒な問いになりました。これは、この10年間の世界の動きが大きく反映されています。アジアやアフリカで大規模な森林伐採と内戦によるブッシュミート取引の増加によって、大型類人猿のオランウータン、ゴリラ、チンパンジーの生息状況は悪化の一途をたどっています。

SAGAとは、Support for African / Asian Great Apesの略です。上記の大型類人猿の、①野生における保全、②飼育下における福祉向上、③私たちの進化の隣人として非侵襲的な研究を実施する。そのための、市民の自主的な集いとして始まりました。しかし、大型類人猿の置かれている環境を考えることは、他の野生動物の生息実態や動物園のあり方、そして人間の進化を考えることにつながります。とりわけ、日本の野生動物や、動物園で飼育されている大型動物の福祉を考えることは、私たち自身の生き方を考え直すことになります。

SAGAの考え方を発展させる試みとして、京都大学には2008年に野生動物研究センターができました。さらに、リーディング大学院として「霊長類学・ワイルドライフサイエンス」ができました。日本学術会議の中には「ワイルドライフサイエンス分科会」ができています。日本が主宰して、2010年には名古屋でCOP10が開催され、里山イニチアチブが世界で通用する活動指針となりました。これは、生物多様性が世界で急速に減少しつつあり、多様性が高く、固有種が絶滅の危機に瀕しているホットスポットと呼ばれる地域のひとつである日本が、それを保全する動きを世界で加速していかなければならないという態度の表明でもあったのです。

私も2009年から昨年まで、SATREPSという地球規模課題対応国際化学技術協力プログラムとして、アフリカのガボン共和国で野生のゴリラやチンパンジーの研究とともに生物多様性の保全に取り組んできました。今、私たちが将来の道をはっきりと付けなければ、類人猿たちは次々に滅んでしまう瀬戸際に立っています。

かつて「ノアの箱舟」と言われた動物園の役割はますます重要になっています。それには、動物園が「野生の窓」として幅広く機能する必要があります。日本モンキーセンターも、そういった期待のもとに昨年公益財団法人として再出発しました。京都市動物園も新しく生まれ変わりました。今こそ動物園と大学を中心にして地球の豊かな未来を構想し実現するときだと思えます。ぜひ、みなさんの積極的な参加を得て活発な意見交換が行われることを願っています。

京都大学総長
山極 寿一



講演要旨集

会場

京都市動物園 正面エントランス1F レクチャールーム

国境を超える絶滅危惧種：ボノボの事例から

京都大学霊長類研究所
古市剛史

絶滅危惧種に指定されているボノボは、20 世紀になってからその存在が知られることになったこともあって、動物展示、医学研究、行動研究等様々な方面の需要がある。しかしボノボは、他の類人猿とは異なりコンゴ民主共和国 1 国にしか生息していない。したがって、合法、非合法を問わず、その入手経路はきわめて限られており、なんとかボノボを手に入れようとさまざまな試みが行われる。現地の密猟者から 5 ドル足らずで購入されるボノボは、キンシャサの市場では 50 ドルほどで取引され、最終的に先進国の動物園が購入しようとする数千万円の値段がつく。これほどの大きな利ざやを生み出すところには当然多くのもくろみを持った人々が群がることになる。私が野生のボノボの研究を始めた 1980 年代から、2 度の内戦を経て現在に至るまでの間、どのような争奪戦が行われ、どうやってボノボが国境を越えて行ったのか、未確認情報をも交えつつ紹介し、希少動物をめぐる国際的な動きの理解の一助にしたい。

熊本サントクチュアリにおけるボノボの導入

京都大学野生動物研究センター
平田聡

2013年11月末、京都大学野生動物研究センター・熊本サントクチュアリにボノボが到着した。アメリカ・サンディエゴ動物園からの4個体だ。その半年後の2014年5月、シンシナチ動物園から別の2個体のボノボが熊本サントクチュアリに合流した。したがって、現時点で熊本サントクチュアリに6個体のボノボがいる。男性2個体、女性4個体の構成である。彼らが、現在日本にいる唯一のボノボである。国内の他の場所にボノボは飼育されていない。熊本サントクチュアリで、国内初の飼育下でのボノボ研究がスタートした。ボノボの導入に先立って、日本学術振興会最先端研究基盤事業や文部科学省特別経費等によって研究飼育環境の整備をおこなった。比較認知科学実験用大型ケージが2基完成し、全長150メートルの回廊も新設された。導入に伴うその他の経費や手続きは京都大学野生動物研究センターや同大学霊長類研究所が担い、導入が実現した。ボノボ導入は、アメリカ動物園水族館協会の正規の手続きに則っておこなったものである。同協会が派遣する査察官による熊本サントクチュアリにおける現地調査ののち、ボノボ SSP (Species Survival Plan) に正式にメンバーとして加わった。ボノボは、チンパンジーと並んでヒトに最も近縁な動物であるが、両方で異なる性格を備えている。概して、チンパンジーは攻撃的で男性優位の社会を築き、ボノボは平和共存的で女性の立場が強い社会を築く。こうした違いは何によるものか。チンパンジーとボノボの比較研究をおこない、さらにアフリカの野外研究も実施して、人間の本性の進化的起源の解明を目指したい。すでにチンパンジーを対象として蓄積されてきた研究のノウハウを生かして、ボノボを対象に比較認知科学的研究を展開する計画だ。並行して、彼らの豊かな暮らしの実現を図りたい。本発表では、ボノボ導入の経緯と将来展望について概説する。

ラオスから子ゾウたちがやってきた ～京都市動物園へのアジアゾウ導入について～

京都市動物園
生き物・学び・研究センター
田中 正之

ゾウは動物園を代表する人気動物です。もちろん動物園に来れば、ライオンやキリン、シマウマ、そしてゴリラやチンパンジーのほか、たくさんの動物を見ることができます。それでも、多くの動物の中でも、あの体の大きさ、そして特徴的な長い鼻を見ると、動物園に来てよかったとさえ思えるのではないのでしょうか。そんなゾウが、京都市動物園には5頭もいます。そのうち4頭は、昨年11月にラオスから、日本との外交関係樹立60周年を記念して、京都市動物園としては110周年を記念して、新たに整備された「ゾウの森」の施設にやってきました。やってきたのは3歳から7歳の子どものゾウたち。毎日、運動場で、元気に遊んだり、のんびり餌を食べていたりしています。そして、プールでは、人間の子どものように、大はしゃぎで水遊びする様子が見られます。ホームシックになることもなく、すっかり京都市動物園の環境に馴れてくれたようです。

この子ゾウたちを迎えるにあたって、京都市動物園は、ラオス天然資源・環境省 森林資源管理局と、「ゾウの繁殖プロジェクト」に関する覚書を交わし、共同でゾウの飼育下繁殖に取り組むこととしました。かつてラオスは、「ランサーン王国（現地語で、百万頭のゾウの国）と呼ばれるほど、ゾウがたくさんいたそうです。しかし、国の発展に伴う森林の伐採や象牙を狙う密猟によって、野生のゾウの生息数は急速に減っており、いまや1000頭前後と推定されています。ラオスには、昔からゾウを飼いならして材木運びなどの使役に使う「ゾウ使い」たちがおり、飼育下で代々繁殖をしてきたのですが、そちらも材木運びの仕事がトラクターなどに取って代わられる中、飼育下でも500頭を割り込むほどにその数を減らしています。現地での問題として挙げられているのが、繁殖率の低さだそうです。その問題は、日本の動物園でも共通する問題であり、両国で協同して問題の解決に当たることとなったのです。この機会に、両国のゾウ関係者が飼育管理や獣医学の技術を学び、新たな課題を研究することにしました。まだその緒についたばかりですが、本発表では、ゾウが京都に来るまで、来てから、そして現在進行中の研究プロジェクトについてご報告いたします。

アフリカゾウの繁殖

愛媛県立とべ動物園

椎名 修

愛媛県立とべ動物園では1988年9月に南アフリカより雌雄2頭のアフリカゾウを導入した。当時国内におけるアフリカゾウの繁殖例は群馬サファリパーク、姫路セントラルパーク、多摩動物公園の3園であった。当園においても、飼育下繁殖を目的とし各種データ収集や基礎研究として採血や行動調査などを実施してきた。メス個体では1990年より実施している採血により、黄体ホルモンの動態から発情を知り得ることが可能になったため春季発動から4回目の排卵より規則的なホルモンの動態を確認することができ、その平均値は16.2週となった。定期的に膣頸管粘液の漏出も確認されるようになり、このことは他種における発情時期に認められる発情粘液と同様なものと思われた。また、人工繁殖の基礎研究として、経直腸超音波検診や膣前庭スメアー、LHサージの確認なども進めてきた。ゾウの妊娠判定は交尾後にプロゲステロン値が12週以上連続して上昇していることが一つの目安になっているが、P値は妊娠期間中高い値を維持し、2006年「媛」出生時の場合、岐阜大学による検査結果では血中P値は205~2405 pg/mlの間で推移し、P値は妊娠12カ月目ころから減少傾向になり分娩7~9日前に急激な減少が認められた。

2006年11月9日に待望の第1仔を迎えることができたが、分娩後母獣の「リカ」は仔の媛に授乳させることなく問題行動を起こしたため母仔を分離し人工哺育に切り替えた。

その後、ペアリングを実施し「リカ」の妊娠期間中に人工哺育個体の「媛」を隣室にて管理し、「リカ」と「媛」の同居を繰り返し仔ゾウと接触することにより母性の目覚めを期待し分娩まで管理を続けた。

2009年3月に第2仔の「砥夢」が誕生した。育児に関しては仔を転がし、引きずるなどの問題行動も観察されたが、授乳や仔を加護するなどの通常の育児行動に関しては成長が感じられた。早期に第1仔の「媛」との同居を実施し、母親のストレスの緩和や仔ゾウ同士の遊びの中からの社会性やコミュニケーションが図れるように考慮して飼育管理を続け、オスゾウとの同居展示も実施した。3回目のペアリングに関しては「リカ」の発情周期とオスゾウの行動を見極め仔達と同居しながら実施した。第2仔の「砥夢」は東京都多摩動物公園に転出したが、継続的な繁殖により第3仔の「砥愛」を加えた年齢層の違う3頭のメスゾウが野生本来の母系家族や群れで暮らす姿を見ていただく事が可能となった。また、人工哺育個体を群れに戻す事ができたため、次世代の繁殖を担ってくれる期待も高まっている。今後とも野生本来の姿で展示を継続できるよう努力を続けたい。

公益社団法人日本動物園水族館協会 (JAZA) における飼育下個体群管理

公益社団法人日本動物園水族館協会
(大阪市天王寺動物公園事務所)
高見 一利

野生動物を飼育下で長期的に維持していくためには、その種の飼育下個体群を適切に管理し、健全な状態に保ち続けなければならない。施設を超えた組織的な連携によって、より多くの個体を対象とした効果的な個体群管理が可能となる。そのため、国内の動物園水族館 151 施設が会員となって構成している公益社団法人日本動物園水族館協会 (Japanese Association of Zoos and Aquariums : JAZA) では、組織的な個体群管理の取り組みを推進している。

しかし、取り組みを進めるにあたって、動物によっては種や亜種の分類が不明確、生態や繁殖生理などが未解明、あるいは個体の所有権に基づく施設間移動の峻拒など、様々な課題が存在している。また、動物園水族館の施設や資金、労力といった資源は限られている。従って、あらゆる種を飼育下で維持していくことは困難である。

そのため、JAZA は優先的に飼育下で維持していく種を選定するコレクション計画 (JAZA Collection Plan : JCP) を策定した。これは、実現性を考慮しつつ対象種を選定し、優先度に応じて 4 つのカテゴリーに分類し、それぞれに適した方法で管理しようという計画である。カテゴリーごとに、全個体に関する年齢、性別、血縁といった個体情報を集積した血統登録簿の作成、個体情報を基にした個体群統計学的分析ならびに遺伝学的分析の実施、分析結果に基づき繁殖ペア形成等を図る個体群管理計画の策定、対象種に関する調査研究の実施といった作業を選択して実施することで、持続可能な飼育下個体群の確立を目指している。

このような取り組みの結果、様々な種で成果が出ているが、依然として安定的な個体群の維持が困難な種も多い。JAZA はその対策として、飼育動物情報共有システムの導入や配偶子バンクの設立といった事業を実施するとともに、国や地域の枠を超えた連携によるグローバルな飼育下個体群管理にも積極的に参画している。

近年、JAZA は環境省との連携の下で日本産希少種の生息域外保全に活発な取り組みを行うなど、その活動は拡大しつつある。動物園水族館は、将来にわたり飼育下個体群の維持を通じて、直接的あるいは間接的に野外の野生動物の保全に貢献できる施設であることが求められている。

シカゴへのニホンザルの移出

松沢哲郎（京都大学霊長類研究所・日本モンキーセンター）

SAGA が 1998 年に発足した直接のきっかけは、チンパンジーの医学感染実験の阻止でした。肝炎治療の開発のために健康なチンパンジーに肝炎ウイルスを接種します。絶滅危惧種であるチンパンジーをそうした医学実験につかっははいけません。また飼育下では、研究者と動物園のあいだの情報交換が乏しい時代でした。研究者と動物園人と市民もまじえた自主的な集いである SAGA の 18 年間の着実な歩みがあって、大型類人猿の保全と福祉が進み、研究者と動物園の距離が縮まっています。京都市動物園には、生き物・学び研究センターができました。日本モンキーセンターも、1956 年に設立され日本の霊長類学の発信基地でしたが、2014 年に装いを改めて公益財団法人になりました。理事長は元京大総長の尾池和夫、博物館長は現総長の山極壽一、動物園長は京大野生動物研究センターの伊谷原一で、わたくしは所長として全般的な運営に携わっています。PRIMATES という英文雑誌の刊行を続けつつ、サル類に特化した動物園を営んでいます。65 種 949 個体（10 月 1 日現在）のサル類がいます。英語その他の多言語での発信を心掛けたサイトができていますのでぜひご覧ください。そうした国際交流の第一歩として公益財団化した初年度にシカゴのリンカーンパーク動物園にニホンザル 9 個体を無償譲渡しました。あまり一般に意識されませんが、ヨーロッパや北米には野生のサルはいません。先進国のなかでサルがすむのは日本だけです。そのニホンザルは、人間以外の霊長類のなかで北限にすむサルでもあります。寒さに強い。「風の街」という別名もあるシカゴの冬はとても寒い。そこで暮らすサルとしてニホンザルは最適でしょう。昨年 9 月に渡米しました。本年 3 月に国際会議の途上に暮らしをみてきましたがすばらしい施設です。無事にあかんぼうも生まれました。そうした試みを、今回招へいた園長のスティーブ・ロスさんからご報告いただきます。

日本モンキーセンターの多言語サイト、<http://www.japanmonkeycentre.org/>

チンパンジーSSP (Species Survival Plan) : アメリカ加盟園におけるチンパンジーの暮らしを向上するための共同的運営計画

リンカーンパーク動物園、類人猿研究保全センター所長
チンパンジーSSP議長

スティーブン・ロス

チンパンジーは、アメリカ動物園水族館協会に加盟するすべての園のチンパンジーの管理責任を担っている。2015年10月現在273個体のチンパンジーがおり、赤ちゃんから推定70歳以上の個体まで幅広い年齢層となっている。他のSSPと同様に、チンパンジーSSPも遺伝的及び個体群動態的に正常な集団を維持することが目的である。ただし、チンパンジーSSPにとって最も重要なのは、それぞれの園におけるチンパンジーの社会を拡大し複雑さを増すことで、彼らの福祉を向上することである。このために、繁殖個体を適切に見極めて選ぶこと、SSPに加盟していない場所から個体を引き受けること、およびチンパンジーSSPの方針に従うようにすべての園に求めることをおこなってきた。過去10年において、各園の集団あたりのチンパンジーの個体数は50%上昇した。少なくとも5個体のチンパンジーの集団を飼育することができない動物園は、それが可能となるように施設を拡張するか、あるいはチンパンジーの飼育をやめて他の動物園に個体を移すように求めてきた。野生チンパンジーの行動及び生物学に関する科学的な理解に基づいて、チンパンジーSSPはアメリカ国内のチンパンジーの地位の向上を目指す協力体制を築いている。

Stephen Ross, PhD

Director, Lester E. Fisher Center for the Study and Conservation of Apes

Chair, Chimpanzee Species Survival Plan/Chair, Board of Directors, Chimp Haven/Director, Project ChimpCARE

Lincoln Park Zoo, Chicago, IL, USA

The Chimpanzee Species Survival Plan (SSP) is responsible for the management of chimpanzees living in all zoos accredited by the Association of Zoos and Aquariums (AZA). As of October 2015, there are 273 such chimpanzees ranging in age from infants to those estimated to be over 70 years of age. Like other SSP's, the Chimpanzee is responsible for maintaining a population that is genetically and demographically healthy. However, the priority of this program is much more focused on enhancing the welfare of the resident chimpanzees by growing the size and complexity of social groups. This is accomplished by a combination of carefully selected breeding, integration of chimpanzees from outside the program, and cooperative management that requires accredited zoos to adhere to the recommendations of the SSP. Over the past decade, the average group size in zoos has increased by over 50% and zoos that cannot house groups of at least five chimpanzees are required to improve their facilities or transfer their chimpanzees to other accredited zoos for integration. Using a science-based approach that is centered on knowledge of natural chimpanzee behavior and biology, Chimpanzee SSP zoos work cooperatively to enhance the status of chimpanzees across the country.

ゴリラの魅力とは何か？

京都大学
山極寿一

今、イケメンゴリラが大人気である。東山動物園のシャバーニばかりではない。上野動物園のハオコや京都市動物園のモモタロウも多くの人を集めている。昔からゴリラのオスは人気があったが、でもそれは特殊な人々に限られていた。今度はどうも様子が違う。とくに女性に大きな人気がある。それはなぜだろう。その理由を、ゴリラと現代社会の分析から探してみたいと思う。

19世紀の半ばに欧米で知られるようになって以来、ゴリラはその巨体と獰猛な顔つきによって、暴力の権化として人気を博した。キングコングのモデルとなり、映画「猿の惑星」でも体力が売り物の戦士として登場し続けてきた。だから、動物園でもゴリラの姿はその力と好戦性を見せつけるような展示がなされてきたし、人々もそれを期待した。ゴリラが自分を誇示する胸たたきを行いやすくするように、二次元の運動場を設けたのはそのためであろう。

しかし、近年野生のゴリラの研究が進み、とくに動物園のゴリラであるニシローランドゴリラの調査が各地で行われるようになると、ゴリラのイメージが変わり始めた。胸をたたくのは威嚇ではなく、さまざまな意味を持つコミュニケーションであることや、オスが子煩悩で、体の小さいメスに頭が上がらないこともわかってきた。マウンテンゴリラは地上で暮らしているが、ニシローランドゴリラは樹上をよく用い、チンパンジーに匹敵するほどフルーツを好む。オスがメスや子どもたちに大きなフルーツを分配して、いっしょに食べることも観察されるようになった。ゴリラはやけに人間くさい、そして人間以上に寛容な側面をもつ社会生活を送っているのである。

人間のほうも、とりわけ日本人の社会生活も最近大きな変貌を遂げた。女性の社会進出が目立つようになり、男性が家庭の仕事や育児にも参加するようになった。しかし、ジェンダーは変わっても、セクシャリティはなかなか変わらない。だから、異性に対してジェンダーバランスを意識しつつも、生物学的な性を反映した行動を期待してしまう。ゴリラはそれを忠実に反映しているからこそ人気が出たのではないだろうか。乱暴者と思っていたオスが、以外に優しい性質を持ち、とくに赤ん坊に対して細やかな配慮を示す。これこそ現代の日本女性が求めている理想的な男性像なのである。シャバーニもハオコもモモタロウも子育て中だということを忘れてはいけない。イケメンゴリラは、実はイクメンゴリラとして人気を博しているのである。